飯能市立博物館

幕末を駆け抜けた 小川香魚(こうぎょ)

金澤 花陽乃

今月から、渋沢栄一を主人公とした新たな大河ドラマが始まりました。ドラマでは、栄一の縁者が深く関わった事件として飯能戦争も登場するようです。

飯能戦争は旧江戸幕府方と新政府方が各地で戦った戊辰戦争の一地域戦ですが、戊辰戦争を引き起こすきっかけとなったと言われている出来事に「江戸薩摩藩邸の焼き討ち事件」というものがあります。実は、この事件の関係者に飯能出身の人物がいました。その名を小川香魚といいます。

香魚は本名を勝次郎といい、弘化 3(1846)年に久下分村で生まれました。香魚の父松園(粲助)は、幼少時に村内の学者金子祐倫から学び、その後江戸へ出て小鹿野(現小鹿野町)出身の国学者日尾荊山(けいざん)の至誠塾に学んだ人物で、帰村してからも毛呂本郷(現毛呂山町)の国学者で尊攘運動にも身を投じていた権田直助らと交流を持っていました。松園は慶応 2(1866)年に病で亡くなりますが、香魚はこの父の影響を受けて早くから勤王の思想を持っていたようで、江戸へ行って権田直助や国学者の井上頼圀らと交流を重ねたほか、大里郡甲山(かぶとやま)村(現熊谷市)の根岸友山が開いた私塾にも出入りしていました。やがて尊攘派の浪士として江戸の薩摩藩邸にも出入りするようになり、慶応 3(1867)年に薩摩藩によって浪士組織が結成されると監察の役につきました。

香魚ら浪士たちは、幕府への挑発等を意図する薩摩藩のもと、江戸市中の攪乱を目的として約 2 カ月にわたって江戸じゅうで暴れまわりました。しかしこれに対し我慢の限界を迎えた江戸幕府によって、同年 12 月 25 日に江戸の薩摩藩邸と薩摩藩の支藩である佐土原藩邸が焼き討ちにされます。この時香魚は 2 人の浪士と共に藩邸を逃れますが、今福村(現川越市)に至ったところで川越藩兵に取り囲まれます。その後、砂村(現川越市)までは逃れたものの、これ以上は逃げ切れないとして自害しました。享年 22 歳でした。黒船来航の直前に生まれ、尊攘思想と共に育ちそして散るという、まさに幕末の世を駆け抜けた人生であったと言えるでしょう。

天覧山の登り口近くには、小川香魚の碑と父松園の碑がひっそりと建っています。ハイキングなどへお出かけの際には、ぜひこちらの碑にも足を運んでみてください。

小川松園の碑

小川香魚の碑